

低投票率は自民党岩盤を崩せない

台湾の政治意識に学ぼう

OB・Gニュースも、タイトルを「事務局ニュース」から「OB・Gニュース」に変更してから2月号で200号を発行することができました。月一回の発行であり、時期を逸する編集になるきらいもありますが、毎月10名前後の読者からの寄稿があり「参加型の編集」となっています。

そして、この時期に痛感したことの一つとして「台湾国民」の政治参加の実態について考えたいと思います。

台湾における有権者の投票行為は現在の居住地ではなく、「戸籍地」での投票が義務付けられています。よって戸籍地に住んでいない有権者は、選挙の前日あるいは選挙当日に「戸籍地」に向かつての大移動が行われます。とりわけ学生や若者の多くは、戸籍を故郷に置いたままなのでハイウエー・バスや新幹線、また飛行機などを利用しているの故郷帰りです。

そしていずれの選挙も、ほぼ75%以上と非常に高い投票率であることが報告をされています。初めて政権交代が実現した2000年には82.7%の最高の投票率を記録しました。今般の総統選挙も投票率は71.86%であり有権者の72%弱の皆さんが投票に参加をしていることに注目し

なければなりません。

これを知って、私たち日本との違いを痛感させられました。日本においては、仕事や旅行などで名簿登録地以外の市区町村に滞在しても、選挙民は滞在先の市区町村の選挙管理委員会での投票ができる「不在者投票」があります。

また身体に一定の障害のある方や、要介護5の方が自宅などで投票できる「郵便等投票制度」もあります。さらに期日前投票があります。

つまり等しく投票行為への参加を促す制度が確立されています。しかし誰しもがそうではないと信じますが、選挙が近くなると、街角で選挙民の聞き取り調査が行われテレビなどでその光景が報じられます。「選挙？私には関係がないね」とか、「投票をしても政治は変わらないから行かない」という回答を聞くにつけ残念に思います。

次のグラフをご覧ください。

日本における第40回衆議院選挙（1993年の宮沢内閣による解散・総選挙）から、2021年の第49回衆議院選挙（岸田内閣）における投票率を示したものです。

野田内閣時の69.28%という得票率はありますが、2014年の安倍内閣のそれは、なんと52.66%であり47%強の選挙民が棄権をしていることを知らなければなりません。

首都直下を考える
「文明が進むほど」
天災による損害の
程度も累進する」
寺田寅彦

低投票率は、野党の「多党化」もあり自民党岩盤を切り崩すことができないことを示しています。得票が減っても議席を取ればよい。残念ですがそのようになりかねません。政治は国民の参加によって変えることができます。低投票率は自民党を利用するだけです。

台湾海峡の危機が叫ばれている今日。また戦闘機第三国輸出は「平和国家の理念に反さない」（衆議院予算委員会・岸田首相）、さらに裏金事件3派閥起訴、政治家の責任は「毎日新聞社説」を考えると、低投票率は私たち一人一人に問われる課題であり、同時に「野党共闘」の追求が求められていると考えます。（降矢記）



【1つひとつ】

気づいたこと・感じたこと

13年前の事が

今起きたかのような怖さだ！

(脱原発情報発送担当者・千葉親子)

元日の能登半島地震は、驚きと不安の年明けとなりました。

厳冬の中での地震災害、そして、避難生活に計り知れない不安と寒さの中、「苦労の毎日の事」と思います。心よりお見舞いを申し上げます。

東日本大震災を経験し、原発事故で避難を余儀なくされた私の知人は「心がひび割れたようだ」と口を一文字に結び涙目で顔を伏せて震えていました。13年前の事が、今起きたかのような怖さに呼び戻されてしまいました。

原発立地での地震は、自然災害とは異なり放射能の恐怖が付きます。ひとたび事故が起これば、故郷を失い、日常を奪い、自然を奪い命あるものの未来にまで、被害を及ぼすことを私たちは忘れてならないと思います。

能登半島地震の被災地の珠洲市は1975年に原発建設が持ち上がったそうです。住民の反対運動と、それを切り崩す電力会社の懐柔は金と嫌がらせが容赦なく襲い、その「闘争」は28年にも及び、2003年に凍結されたそうです。

東京新聞「デスクメモ」(16日茨城版)によると、「10年前、大飯原発の運転差し止め命令を出した樋口英明元福井地裁裁判長は、13日『当時の地元の人たちのおかげ』で珠洲原発を止められたと感謝したことが語られ、その感謝の輪に閃



も加わるべきだ。珠洲原発が実現していたら、何が起きたか想像もつかないのだから」とありました。

いずれの地の原発建設には多くの反対闘争がありました。なのに！福島原発事故の時、日本には原発が54機ありました。

地球規模の地殻変動期と言われている今、いつどこで何が起きるか分からない状況に一刻も早く全原発の完全廃炉を願う「脱原発情報265号」を編集しました。

私の町では、新年の行事に初市が開かれ、家内安全、五穀豊穡、商売繁盛を願う縁起物の「風車」や「起き上り小法師」の店が軒を並べます。家族の人数よりも1個多く買います。3人家族なので4個ですが、今年には能登地震に思いを馳せ、みんなが健康に過ごされるよう10個買い飾りました。

「天災は忘れたころにやってくる」

寺田 寅彦

読者から「大災害で幕開けとなった今年、波乱の予感がします」とのメールを頂きました。

地震国日本です。あらためて、いつ、どこで大きな災害があつて不思議ではないということを感じました。

さて、災害を語るとき「天災は忘れた頃にやってくる」と警告を発した、物理学者であり夏目漱石門下の随筆家であつた「寺田寅彦」の言葉があります。つまり「平生から天災に対する防御策を講じなければならぬはずであるにも関わら

ず、それができていないのはどういうわけか。その主なる原因は、天災が極めて稀にしか起こらないために先人の失敗を繰り返す、あるいは二の舞を踏み、同じ被害を繰り返してしまふということです。(「天災と国防」1934年「昭和9年」)

災害対策の大切さはよく口にします。しかしそこには「金もかかる。工事の日程もある、そして人員の配置も含め厄介な面が先立つ。また面倒でもあり、ならば知らないで過ごしたい」という悪習が根っこにあり、そこに必ず災害が付きます。

2023年1月7日、郡山市内の交差点で交通死亡事故がありました。小型自動車が炎上し4名の家族が亡くなりました。

その交差点にさしかかる一方の道路の左側は高台になっているため、交差点に入ってくる一方の車の存在が見えません。現に加害者は「交差点ではなく、単線である」と認識をしたと証言をしています。地域の住民は「危ない交差点であり、改善の要望を出す予定であつた」と述べていました。そして災害後、その交差点には「信号機とカーブミラー」が取り付けられました。まさに「災害を起きてから打つ手を、先に打て」です。

そして能登の災害発生後の1月24日の毎日新聞の次の記事を取り上げたいと思います。

「能登地区では2022年3月以降地震が続いていました。これほど立て続けに地震が起きるのはこれまで経験したことがないと住民が述べていました。またこの地域は2007年にも震度6強の地震が起きています。現に地元石川県は、2

012年に今回の震源地の能登半島北方沖でM・8.1の地震が生じうると試算しましたが、家屋倒壊などの被害の想定を示されず、地震対策の議論を先送りしました。その当時から住宅の耐震化などを進めていれば「救えた命」があったはずですが、つまり地震リスクが周知されずじまいでした。そのことが問われています。同時に県は、政府の方針を待っていたと述べています」。

つまり石川県の姿勢は、国の調査を待っていて自ら地震想定を見直さなかつたのです。そして東日本大震災後、津波被害の想定を見直したにもかかわらず地震被害の想定は四半世紀前から見直していません。地震と津波で、その想定に齟齬(そご)が生じていました。また地震の被害が過小に見積もられており、防災体制に影響した可能性が指摘されます。現に政府の地震調査委員会も、今般の記者会見で能登半島における『活断層の評価』が間に合わなかつたと述べています。そして県は県で国の調査を待っていたのです」。

福島第一原発 汚染水浄化装置

10箇所の排気口から水漏れ

2月8日の毎日新聞地方版で頭記の記事を読む。その内容は次の通りであるが、改めて東電の管理責任の疎さを再度指摘をしたい。

いわゆる記憶に新しいものとして作業員が放

射能水を浴びた災害事故があった。そして発した東電の第一報は、飛散をした廃液は「100ミリリットル程度」と発表した。しかし実態はその数十倍であったこと。さらにその作業に携わっていた作業員は1次下請けと報告をしていたが、後日3次下請け作業員であったと訂正をしている。

元請である東電の統括安全衛生管理はどうなっているのか。当日入場の作業員名簿も把握されていない。そのような指摘を「OB・Gニュース12月号」をもって厳しく問いただしている。

そして今般の事故は、汚染水から放射性物質を取り除く装置の屋外排気口から外部に水が漏れ出しているというものであり、その漏れた水はおよそ5.5トン、さらに国への報告基準の220倍に相当する放射性物質が含まれていたとみられる報告であった。しかし今回も後日に1.5トンの漏れ、放射性物質の量は66億ベクレルと変更された。

さらに東京電力は、現時点で原発の外部への影響は確認されていないと述べている。

国民に疑心をいだかされる東電の管理体制を今回も強く感じざるを得ない。しかも漏洩の原因は16箇所の弁のうち本来は閉じているはずの10箇所の弁が開いていたという。基本的な点検の不備が日常的に行われている東電の管理体制が改めて浮かび上がる。同時に東電の元請管理に疑念頂かざるを得ない。加えて、原発を推進してきた政府の責任でもあることを強調したい。



「被災地における明るい話題」

ネギを切るボランティア・休日の市長

(1月17日・チューリップテレビ)

SNSで被災地への炊き出しの準備を手伝う富山県滑川市の水野達夫市長の行動が話題となっています。週末にプライベートで炊き出しの準備を手伝った水野市長は、SNSでの反響に戸惑いながら「褒めすぎですよ。本当に当たり前のことを当たり前にやっただけで」とコメントしていました。「ふらりと1人でやってきて現場に口出しせず、気もつかわずに野菜カットを手伝って休憩時間に参加者と対話し、特別な挨拶もせずに帰る市長。政治家の現場視察の手本だと思つたこの投稿は、1月17日の午後8時時点で436万回閲覧され、「いいね」の数は9万超……。「素敵な市長さん」などのコメントが寄せられています。



チューリップテレビ

富山県のJNN系列放送局

報告・提言のひろば



■能登半島地震、早一ヶ月を経過しました。自分も3.11を思い出します。当時は仕事をしていたので慌てて事務所を飛び出しましたが立つておられず座り込んでしまいました。雪が舞い寒かつた日でした。その後は連日ライフラインが壊れ大変でした。今回の能登地方の方々の日々の生活が他人事でない気がします。一日も早い復旧を切に望みます。小生も10数年前に数回、車

で能登半島をドライブしました「能登の朝市」も
行きました。テレビを見て何もなかったがさすが
切ないです。ポランテアの方もようやく入り始め
たので少しは前に進む事と思いますが、これから
が国、政府の力量を見せる場面です。だから早
く派閥に絡んだ、裏金問題等国民の納得いく説
明と対応が急務と思います。

■裏金の問題など、日々目の前に現れる様々な
問題の影で、改憲に向けた動きが着々と進行し
ています。この度、具体的な改憲の項目の中でも
現実味を帯びてきた国会議員の任期延長に関す
る改憲について、憲法学がご専門の永山茂樹先生
が「登壇される学習会が開催されます。私たち、
オンライン学習会かわさきでは、この貴重な機会
をオンライン配信(第一部のみ)することとさせて
いただきました。

■先日、社民党自治体議員団全国会議主催で
「能登半島地震と志賀原発・珠洲原発について」
講師は、北野進元珠洲市議会議員・元石川県議
会議員の話 zoomで開催され参加をしました。
2011年3月11日の東日本大震災、その後の
東京電力福島第一原子力発電所の爆発事故後
も「もう原発には頼らない、自然エネルギーや再
生エネルギーによる国づくり」と誰もが覚悟を決
めました。少なくとも、私を含め多くの方はそう
心に決めたはずでした。しかし、岸田政権になり、
そんなことはスツカリ忘れ去られたように思いま
す。そして、沖縄はじめ南西諸島の軍事基地の
建設と沖縄の人々がどんなにNOを突きつけても
聞く耳持たず強引に進めています。誰のための工

ネルギー、誰のための軍拡路線なんでしょうか。

■能登半島の地震を受け、政治は変わらなけれ
ばならないと思っています。沖縄の人々のように、
諦めずに自分の与えられた現場で頑張ろう。仲
間と団結して。

■情けない日本の政治、それに対して大きな動
きを作れない労働界。若い世代の台頭に期待し
たいのですが、日本では諸外国と違って若者の声
もなかなか聞こえてきません。

■小粒でも社民党の存在感を示すことを、出来
ることを努力していきたいと思えます。

■大災害で幕開けとなった今年、波乱の予感が
します。自民党は酷すぎますね。早く政権交代
しないと国民は殺されてしまいます。

■ニユースでバナナの効用がとり上げていました。
そして次の号には朝食に「納豆とバナナ」を食べる
体調の改善が見られるとの読者の報告もあり早
速試してみました。小粒の納豆1パック(35円)、
バナナ二分の一(25円)。調味料なし。食材の値
上がり対策にもなり続けたいと思えます。

■ハラハラしながら注目していた台湾の総統選挙
が終わりました。民進党が政権を継続すること
になり、とりあえずはホツとする気持ちもありま
すが、対中政策始め今後とも簡単な状況ではな
いでしょう。しかし選挙を通じて台湾には健全な
民主主義が息づいていることを見させてくれました。
台湾には在外選挙制度がありません。投票のた
めに飛行機の切符を買って帰国する人も大勢い
ます。自分の一票が小さくとも確かな力を持つて
いること、権利を行使することが民主主義に大き

な意味を持っていることを信じているからです。

総統選でも投票率は8割近くになりました。「担
当大臣のオードリー・タン氏がコロナ対応で有名
になりましたが、台湾で大臣は政治家の「出世双
六の上がり」ではなく、その分野に見識のある専
門家も指名されて就任します。戒厳令が解除さ
れたのは1987年です。同僚が台湾に出向し、
私も出張で頻繁に訪れ始めた時、台湾の人々は
戒厳令下で自由に政治的な話をすることはでき
ませんでした。わずか37年前です。台湾の人々
には自由を勝ち取ったこと、民主主義を勝ち取っ
たこと、それを不断の努力で守らなければなら
ないという強い思いがあるのだと感じています。
翻つて日本ではどうでしょうか。選挙が不正なく
実施されていても、とても民主主義とは思えない
現状があります。台湾の選挙が日本の政治状況
を映しだす鏡に思えて仕方ありません。

■OB・Gニユース2月号の中で労働組合運動を
経験した人の、この情勢下にあつて大衆運動がな
いのはおかしい。大賛成です。

■200号おめでとございます。16年間にわ
たり毎月発行の粘り強さを感じています。志賀
町にある北陸電力志賀原発は運転停止中で大
きな異常はないとのことでしたが？ 1976年
には「珠洲原発計画」があり住民の反対闘争で2
003年に凍結されたそうですが、もし建設さ
れていたらと思うと・・・「3・11」を決して忘れ
ないようにしなければなりません。

勿忘草

(忘れなぐさ)



